NPO緑の会

特定非営利活動法人
NPO緑の会
取手市小文間3838－1
TEL 0297－72－8791

一大プロジェクトへの挑戦
「霞ヶ浦水質浄化作戦」始まる
まず恋瀬川支流の水源地・上谷原池にEM団子8千個、EM活性液2屯を投入

舟から団子投入

活性液の投入

ＥＭを活用した一大プロジェクト「霞ヶ浦浄化作戦」が開始されました。

日本で琵琶湖に次いで大きな我が郷土の湖「霞ヶ浦」は、首都圏における貴重な水資源であるとともに、古来から今日まで人々に多くの恵みをもたらしてきたかけがえのない資源です。

ところが、近年、豊かな環境をもつ「霞ヶ浦」は、社会、経済構造の変化とともに水質汚濁が進行しています。このような霞ヶ浦の環境改善を図るため、これまで様々な水質浄化の取り組みが行われてきていますが、その成果は必ずしも芳しいものではありません。

そこで、「ＮＰＯ緑の会」ではＥＭを活用し「霞ヶ浦浄化作戦」を開始すべく昨年から関係団体等と協議を重ねてきましたが、（株）イーエム総合ネットの支援・技術協力が得られることもあって、「霞ヶ浦をきれいにする会」が設立されました。

本年５月14日「霞ヶ浦」に注ぐ一級河川「恋瀬川」支流の水源地である茨城県石岡市三村の上谷原池に隣接する三城家（浄化作戦に全面的にご協力頂いている地元の有志）にＮＰＯ地球環境・共生ネットワーク、ＥＭネット茨城、よもぎ会、石岡緑の会およびＮＰＯ緑の会のメンバー約３０人が集結し、８千個のＥＭ団子と２トンのＥＭ活性液を投入し、本格的な浄化作戦を開始しました。団子は池の縁から、また舟の上からも次々に投げ込まれ、活性液はタンクからホースを使って、時にはブリキの板を丸めた手作りの流し樋を担いで流し込みました。

また、定点観測所に決められた三箇所で水を採取し、今後水質浄化の改善度合いを測るため水質分析所に送られました。

三城家から団子を運ぶ

三城家の作業小屋の前で打ち合わせする関係者

集まった皆さん もっといたのですが

活性液を噴射

今回の私たちの「霞ヶ浦浄化作戦」はほんの小さな一歩にしかすぎません。「霞ヶ浦」に注ぐ河川は、一級河川だけでも取り組んでいる恋瀬川を含み24河川もあります。しかしながら、一歩一歩実績を積みながら確実に活動を継続し、更に多くの仲間を組織していきたいと考えています。そして近い将来、今日の私たちのこの一歩が大きなうねりとなって、「霞ヶ浦」の水質浄化が進むことを願っています。

当面は、毎月第一日曜日に現地、上谷原池で浄化作戦を継続していくことになっています。

団子を積んで出発

団子投入

１０００年後も２０００年後も緑豊かな美しい地球であってほしい！

霞ヶ浦の紹介

COM 霞ヶ浦から転載

霞ヶ浦（かすみがうら）は、茨城県南東部から千葉県北東部に広がる湖。湖沼水質保全特別措置法指定湖沼。国土交通省などの行政機関においては、「霞ヶ浦」を**西浦・北浦・外浪逆浦**（そとなさかうら）**・北利根川・鰐川・常陸利根川**の各水域の総称として定義している。なお、河川法ではこの範囲を「常陸利根川」という利根川の支川として定義している。一方、「霞ヶ浦・北浦」のように事実上西浦のみを指して使われる場合も多い。 湖面積 220km²は日本第 2 位、茨城県最大。主な水域別の面積は西浦（172km²） 北浦（36km²） 外浪逆浦（6km²）常陸利根川（6km²）なお、西浦の土浦市方面に伸びる水域を「土浦入（つちうらいり）」、石岡市方面に伸びる水域を「高浜入（たかはまいり）」、この両者が交わる中央部の広い水域を「三叉沖（みつまたおき）」と呼ぶ。平野部に位置するため流域面積は 2156.7km²と広く、茨城県の面積の約 35%を占める。水際線延長は 249.5km で、これは日本最大面積を誇る琵琶湖(235.0km)よりも長い。平均水深は約 4m、最大水深は約 7m、年間流下量は約 14 億 m³、貯留量は約 8.5 億 m³。主な流入河川は桜川、恋瀬川、巴川、小野川など。太平洋側に位置するため、梅雨期と台風による降水が多く、冬は晴天が多く降水量が少ない。特に周辺では冬に「筑波颪（つくばおろし）」と呼ばれる強い北西の季節風が卓越する。流域の年間平均降水量は約 1300mm で全国平均（約 1780mm）に比べると少なめである。北には涸沼があり、南には利根川が流れ、北西には八溝山地の南端にあたる筑波山（標高 877m）を擁している。霞ヶ浦の周辺は、台地と低地が入り組んだ場所が多く、筑波山は周辺の最高点であるため潮来市など遠く離れた場所でもよく望むことができる。時代や場所によって程度は異なるが、利根川の河口から近いために、歴史的には汽水湖としての期間が長かったが、現在は 1963 年に竣工した常陸川水門（逆水門）によって締め切られているため、淡水湖として扱われている。

編集後記　比嘉教授を迎え「善循環の輪茨城の集い」があった翌日、比嘉教授が上谷原池と霞ヶ浦を現地視察していただき、何かとアドバイスしていただいたことは、大変幸運なことでした。関係者が大いに勇気づけられたこと間違いありません。次号は、「茨城の集い」特集を掲載予定です。　KF

「霞ヶ浦をきれいにする会」の今後の活動について

①現在、培養装置1機と二次培養タンク2機、糖蜜貯蔵用タンク1機を三城宅に、培養装置1機を大倉宅に設置していますが、近々更に培養装置1機を飯塚宅とその他に2機設置予定です。

②恋瀬川の支流につながる上谷原池にEM活性液・だんごの投入を中心とする主要な活動を毎月第一日曜日に行う。

③恋瀬川上流の養豚農家に対する普及活動や近隣小学校のプールでのEM活用、PTAや婦人会などへのEM普及活動を行っていく予定です

比嘉教授霞ヶ浦浄化作戦を視察

６月１７日「善循環の輪茨城の集い」が行われた翌日１８日、比嘉教授が、霞ヶ浦浄化作戦の現場を視察され、多くのアドバイスをいただきました。

また、上記集いの席上では、NPO地球環境・共生ネットワークからEM培養装置「優君」の無償貸与の有り難い提案がありました。

関係者にアドバイスする比嘉教授

比嘉教授と比嘉 新専務
親子の楽しい2ショット

皆さんと記念写真

「霞ヶ浦をきれいにする会」
代表　飯塚敏夫、 副代表　恒川芳克
事務局　大倉みや子
会　員　上記を含み24名（H18.6.21 現在）
会の趣旨に賛同し、ご寄付をいただいた方も会員として登録させていただき、会の今後の活動についても順次ご報告させて頂くことにしています。